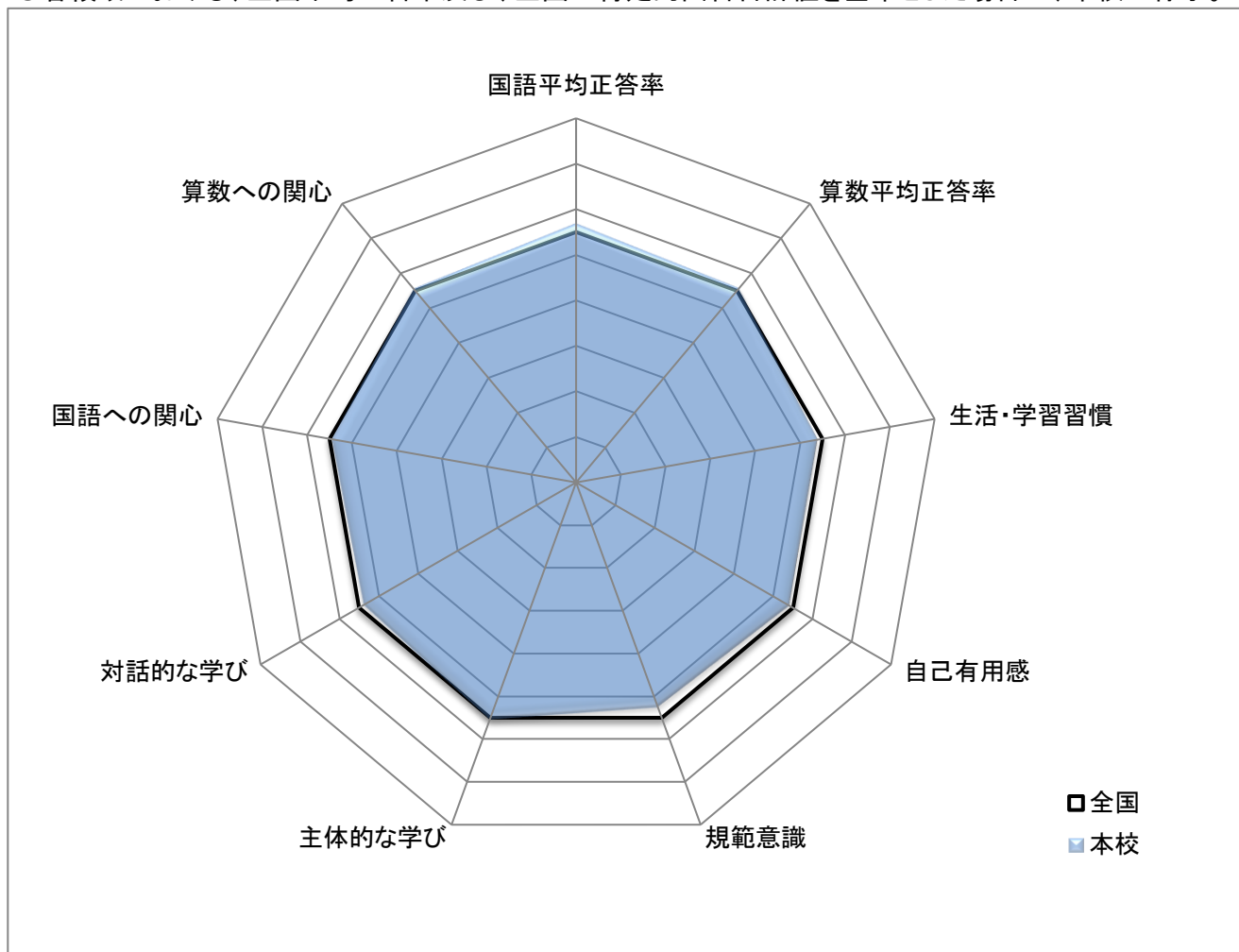


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語の平均正答率は全国平均正答率を2.4%、算数の平均正答率は全国平均正答率を0.8%上回っている。
- ・国語は、「書くこと」の領域が全国平均正答率より4%上回っている。一方で、「読むこと」が他の領域より低い傾向にある。
- ・算数は、「図形」の領域が全国平均正答率より約10%上回っている。一方で、「数と計算」の領域は全国平均正答率より下回っている。
- ・国語、算数ともに記述式の正答率は全国平均と同程度である。

《授業改善のポイント》

- 【国語】
- ・主体的で対話的な深い学びとなるよう、児童自ら考え、深めていくような授業展開を重視し、思考力、判断力、表現力を育てていく。
 - ・叙述を基に、理由を明確にして自分の考えをもつように指導する。
 - ・読書科での本の選び方について指導方法を改善し読解力を高める本を読ませていく。
 - ・児童の関心・意欲を引き出すような導入を工夫して行う。
- 【算数】
- ・立式の根拠を、図や数直線などを活用して自分の考え方を説明する機会を増やすなど、言語活動の充実を図り、算数の思考力、表現力を高めていく。
 - ・「数と計算」の補習プリントを用意し、朝学習や補習教室等で取り組む。

《チャートの特徴》

- ・国語の平均正答率は、全国平均をやや上回っている。
- ・算数の平均正答率は、全国平均と同程度である。
- ・国語への関心や算数への関心は全国平均と同程度である。
- ・主体的な学び（課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組むこと）や対話的な学び（話し合い・学級活動）は、全国平均と同程度である。
- ・生活・学習習慣や自己有用感は、全国平均と同程度である。
- ・規範意識は、全国平均をやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・授業で学習したことを家庭や地域で活用したり関連付けたりすることで主体的に学ぶ児童を育成する。
- ・学習用タブレット端末を活用して家庭学習や復習等に取り組ませて学習の定着を図る。
- ・規範意識を高めるために道徳科で児童一人一人が考え、表現する場を設定したり、学期1回あいさつ運動を実施したりするなど、生活指導の充実を進める。